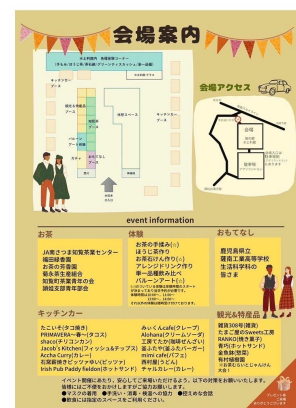


地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	南九州市茶業振興会
役職	
氏名	窪 拓摩
着任日	令和3年2月1日

活動月	令和4年10月(着任1年10ヶ月)
主な活動	1. お茶いっぱいの日『知覧茶マルシェ』を盛大に開催！ 2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談 3. 地域を超えた情報交流への注力、その他

1. お茶いっぱいの日『知覧茶マルシェ』を盛大に開催！



写真：知覧茶マルシェオンラインとオフラインPOP / イベントチラシやPOP作成風景

2020年のコロナ禍よりオンライン配信を継続し、今回の11月23日でオンライン開催3回目を迎えた『知覧茶マルシェ』を実施しました。年を重ねるごとに、SNS効果として全国のお茶好きを中心とする利用者に当イベントが定着をしてきており、イベント開催までに非常に多くのシェアや告知をいただきました。今では全国に知覧茶を伝えていただく方々がいることへの心強さをひしひしと感じているところです。

また、コロナの発生状況を見ながら昨年からの南九州市での現地イベントもリスタートし、本年は顛娃町の高台にあるお茶体験施設「畑の郷 水土利館」を会場としました。



写真:お茶むらいくんとのじゃんけん大会ではご家族を中心に大盛況！

お茶消費におけるメインマーケットである首都圏や関西圏からの物理的距離ハンデがあるのが知覧茶の産地ではございますが、オンラインであれば多くの方々と繋がり発信/受信のコミュニケーションをとることが容易です。

今後も全国、時に海外の方々と交流を深めていきたいと計画をしています。

また、確実に人が動いている現状に遅れを取らないよう、オフライン(対面)でのイベントの重要性も多く感じています。

今回のオフライン開催前には、地元南九州市の全世帯へのチラシ全戸配布を実施しております。加えて鹿児島県内各地へのSNS広告発信作業などをおこない、当日はご家族づれを中心に、会場で知覧茶を楽しまれたり、畑の郷水土利館でしかできない「手もみ体験」「ほうじ茶づくり」「お茶石鹸づくり」「アレンジドリンクづくり」「単一品種飲み比べ」「バルーンアート」「お茶むらいじゃんけん大会」...など、体験イベントも大盛況で材料が早い段階でなくなるほどでした。

今回に限らずですが、イベントの企画段階から当日まで、関係各所の方々からは「あそこでイベントをしても人は来ないよ」「なんでわざわざアクセスの悪い場所で開催するの」「あそこ寒いでしょ」「遠い」「めんどくさい」.....などなど、燦々たるネガティブワードを聞いてきました。しかし、蓋を開けてみれば、天候がお世辞にもよくない状況ながら1,000名を超えるご来場をいただく素晴らしい結果となりました。

地域おこし協力隊活動報告書



写真:お茶体験各種 / 薩南工業おもてなし / 会場風景 景色は最高です！

いつしか、コロナという言葉で何事にも実行しない流れが出来上がってしまっています。大義名分をつくるだけのやったふりを実施するのではなく、今一度「誰の・なんのために」茶業振興を続けているのか、一人一人が考え実行する時期であり、お茶好きを中心とする全国の南九州市・知覧茶を応援いただいている方々も、今か今かと待ち侘びているところです。改めまして、今回ご協力をいただきました関係各所の皆様に、厚くお礼申し上げます。

2. 外部企業との連携、ブランディングづくりの商談

当月も、引き続き来春の新茶最盛期に向けたプロモーション、企画に向けた外部との商談/打ち合わせを実施しております。

また、茶生産量で全国でも非常に体力のある知覧茶の海外輸出に向けた「日本茶輸出セミナー」への参加もしており、今後の活動のメイン業務として進めております。

3. 地域を超えた情報交流への注力、その他 全国から紅茶生産者が集結し開催された地紅茶サミット



写真: 過去最高の来場者数にて賑わいを見せる地紅茶サミット会場

<https://www.jikocha-minamikyushu.com/index.php>

当月上旬、知覧平和公園にて全国から紅茶の生産者が集結し開催された全国地紅茶サミットの会場ヘルプで参加しております。

熱量のある生産者とお話を聞くと、非常にモチベーションが上がり視野が綺麗になっていく感覚を覚えます。過去最高の来場者となり、素晴らしいイベントでした。

その他



知覧銘茶研究会が発足され本年50周年という節目にて、当月式典を開催し参加しました。現在は、地元鹿児島県を中心に、南九州市といえば知覧茶というブランドが浸透していますが、研究会発足当初の黎明期に必死にもがき前を向いて進み続けてきた方々の顔ぶれを会場で見ると、現役こそ引退しているものの、今でもしっかりと戦う目をしていらっしゃると感じました。

私が当市の茶業に携わって数年、たくさんの方々のご挨拶をさせていただきました。ダウントレンド中で苦戦を強いられながらもしっかりと抗い戦い続けている生産者、歴代の茶工場を引き継ぎ自分の個性を出し変革を進めている生産者、対照的に知覧茶という茶業の巨大組織の一人として目を伏せながら時代の流れに身を任せている生産者、新たな取組に消極的姿勢を崩さない生産者などなど、多くの茶業関係者で今の知覧茶はできています。どのポジションからの視点で捉えるかによって「公平」「平等」の意味が全く異なってきます。やるからには、上を目指し「産地日本一」の名に恥じない知覧茶として胸を張って進んでいきたいなと私は強く思い、日々業務に向き合っているところです。

以上簡単ではございますが、当月の報告といたします。